

1. 外部評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2972300129
法人名	有限会社 サンコーポレーション
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	奈良県宇陀市榛原区萩原750番地 (電話)0745-82-0010

評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成20年2月23日

【情報提供票より】平成20年2月15日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 1 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 2.4	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建て	0	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円
敷金	有() 円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有 300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
		一日	1,330円

(4) 利用者の概要(2月15日現在)

利用者人数	8 名	男性 名	女性 8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	1 名
年齢	平均 85 歳	最低 73 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇陀市立病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は駅から5分のところにあり、近くにショッピングセンターや郵便局などもあり便利なところである。玄関周りに季節の鉢植えを置き、塀などは設けず、開放的で入り易い。同敷地内に管理者の居宅があり、職員と共に業務もこなしているの、利用者や家族の状態や希望を的確に把握し、素早い対応が取られている。職員は「明るい笑顔と温かい心」でその人らしいケアの実践に取り組んでいる。また3代続いた地域の開業医であることから、地域との交流は蜜にとれており、ボランティアの参加や併設のデイサービス、ショートステイ、長期入居を行なうシルバーコートひまわりやカルチャー教室の教師出前授業など交流も盛んである。事業所内は広く、花や利用者の作品が飾られ、小さな室内犬を飼うなど穏やかで安らぎのある事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画の見直しは、2~3ヶ月に1度されていて、日付が記入されている。アセスメントシートでの生活歴、趣味、生きがいなどの記入が十分ではないが、ケアマネジャーが交代され意欲的に取り組もうとされている。契約書、重要事項説明書、運営規定に使われている共通の言葉が統一されてなく、早急に見直される予定である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議を開いて話し合うと言う形は取られていないが、家族の来訪時に意見を求めたり、日々のケアのなかで職員の意見を吸い上げケアマネジャーと共に自己評価を作成している。申し送り帳の作成と確実な伝達方法を検討されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市担当職員、民生委員、包括支援センター職員、家族代表、老人会などの参加を得て、これまで2回の運営推進会議が開催されている。事業実績や今後の事業計画、ボランティアの活動内容、生活リハビリについてなどが報告されている。2ヶ月に1回の目標ではあるが、今のところ出席者相互の日程調整など無理な状態である。出席者の忌憚のない意見を引き出すのが今後の課題と思われる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>管理者は同敷地内に住居があり、夜勤業務もこなされていて、相談や苦情に対して何時でも対応できる体制にある。家族来訪時にはお茶を出したり、時には食事を共にして意見の出しやすい雰囲気を作り、事業所の出来ること、出来ないことを伝えて、出来ることに関しては早い対処を心がけている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者自身が地域住民であり、自治会組長も勤めるなど地域住民や地域の社会資源との連携は良く取れている。ボランティアの活動も盛んに行なわれていて、それが生きがいになっている利用者の方もいる。地域の行事やイベントには積極的に参加し、事業所主催の行事には来場制限が必要なくらいの参加者がある。</p>

2. 外部評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(利用者の立場に立ち、安心と尊厳のある生活を送ることができるよう支援します)を基本理念にく明い笑顔とやさしい心>で、その人らしい暮らしを支えている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が理念に基づいた実践を行なうことで、職員との共有がはかられている。職員は言葉掛けや態度に特に注意をはらっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	3代続いた開業医であり、管理者自身が地域住民であることから自治会参加は勿論のこと、組長をするなど地域との関わりは蜜にある。住民ボランティアの申し出もあり、地域や事業所の行事への参加も多く、馴染みの関係ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価に前向きな態度で取り組んでおり、ケアマネジャーを中心に、日々の実践の中から職員の意見を吸い上げて、その人らしいケアの改善に活かしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	福祉課職員、民生委員会長、包括支援センター職員、家族代表、老人会、職員などの参加を得て、2回の運営推進会議が開催され、事業実績や事業計画などが報告されている。今後は年3～4ヶ月に1回を考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の活動内容の報告や介護保険の更新など市町村担当者との意見交換が行なわれていて、外部評価結果も報告している。介護相談員を受け入れるなど質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には声掛けをし、写真を多く載せたホーム便りを2ヶ月に1度発行するなど、日々の暮らしを伝えている。請求書には立替分として個人が購入した物品のレシートや領収書を貼り請求、報告がされている。金銭管理のできる人は、個人で小使いの管理をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には声掛けをし、お茶の接待や時には食事を共にするなど、意見の言いやすい雰囲気を作り、出来ること、出来ないことを伝え、早い対処に心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1年間での退職者は1名で、採用時には人間性を重視している。退職は利用者、家族に報告し、管理者、職員で配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が受けた研修内容を全職員が共有できるよう話し合われているが、職員が研修を受ける機会が少ない。	○	職員の外部、内部研修の受講を充実させ、実行したいとの管理者の思いがあり、今後の取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との管理者同士の相互交流があり、意見交換などが行なわれている。今のところ職員間の交流は行なわれていない。	○	職員自らが実践しているサービスの質を知り、向上させる取り組みのためにも、職員同士の交流を行なう機会を作られることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用は1～7日間を個々に応じて行なっている。体験利用からそのまま利用に至る人もいて、家族とも相談しながら雰囲気に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴を活かした貼り絵や習字の上手な方、料理の得意だった方などおられ、作品を壁に飾ったり、巻き寿司、おひたしなど職員と一緒に楽しみながら作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書の本人の希望欄が少ないものの、日々の暮らしのなかで、希望や意向の把握に努め、家族からの意見も聴取している。散歩や行事への参加、買い物など計画し実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々実践の中から職員の意見を拾い上げ、家族の意見、医師の指導など取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月位で見直しがされている。日々のケアの中での職員の意見を元に、管理者とケアマネージャーが主になって見直しをしている。日々の記録のなかで夜間の記録が不十分に思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて通院や墓参り、自宅を見に帰るなどの個人的な外出など自主サービスしている。隣接したシ「ルバーコートひまわり」との交流もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族と相談し受診するようにしている。医療機関とは連携がよくとれていて、定期的な往診や相談、緊急入院の受け入れなどの体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化し、食事摂取ができなくなり点滴などが必要になった時は、医師、家族、事業所の三者で話し合い決めている。今のところターミナル支援の事例はない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室の入り口にはそれぞれ違う暖簾を掛け、トイレ誘導や入浴時には特に注意をはらって声掛け、支援をしている。管理者は職員に共に生活する中で、プライバシーの保護について話している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居間の大きなテーブルには個々の小物入れ(小タオル、お手玉、ペンなどが入っている)が置かれ、ゆっくりと食事をする方や、腰が痛い部屋に帰る方、ホームコタツやソファで昼寝をする方などそれぞれのペースで過されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には特に力を入れておられ管理者は調理師連合会の主催する調理師健康教育課程を受講されている。出来合いの市販物は使わず、お漬物、煮豆、乾物の煮物など手作りし、食材も地場野菜を多く使うなど気を配っている。豆皿や小鉢に少しづつ幾種類ものおかずが盛られている。食材を切ったり、巻き寿司を利用		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	冬場は週2回の入浴を実施し、希望があればその都度対応されている。入浴されない日は足浴を実施しているが利用者には好評である。バスクリンを入れたり、ゆず湯にするなど工夫されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理や掃除の手伝い、散歩や遠足などの他にボランティアによるお茶、お花のお稽古、習字、スケッチ絵、踊り、英会話、ビーズ工作など楽しみごとのメニューが組まれている。テーブルの上や壁に作品が飾られ、どなたの作品も立派な出来栄で、来訪者の目を楽しませている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	3・4人の方は買い物に行かれるが、だんだん買い物に興味を示さなくなっている。川沿いの歩道を散歩したり、地域の季節ごとの祭り、作品展、展示会、遠足、食事会など気候に合わせて出かける機会を多く作っている。時には墓参りにお供することもある。ベランダで日向ぼっこが出来るように椅子が置かれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の周りには塀などはなく開放的な構造になっており、前面道路は車の通行量が多いため玄関には鍵をかけている。ベランダには鍵は掛けていないので自由に出入りができる。以前泥棒に入られたことがあり、玄関の壁に盗難除けのお札が貼られていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導による避難訓練が年2回行なわれており、トイレや台所に緊急時の対応マニュアルが貼られている。職員は出勤するとコードレス電話の子機を全員が持ち、どこに居てもすぐ連絡が付く体制がとられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者が調理師健康教育課程を受講し栄養バランスを把握すると共に、介護記録には水分量が細かくチェックされている。便秘予防のために高野豆腐や切干大根の煮物を常備食にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、浴室、トイレは使いやすく、居室前の廊下は広く設計されている。居間には大きなテーブルの他にソファ、ホームコタツが置かれ、季節の花や利用者の作品や写真を飾って居心地良い空間が作られている。ホームコタツで4の方が昼寝をしており、ソファで昼寝している方の足元で室内犬も一緒に昼寝をしている姿は、とても和やかで微笑ましい光景であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には作り付けのクローゼットがあり、ベッドや仏壇、専用の家具調ポータブルトイレなど持込、手作りのカレンダーや写真を飾っている。3段のワゴンに小物が整理良く置かれ、安定の良い椅子が置かれている部屋もある。		